
計算通り

境康隆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
計算通り

【Nコード】
N1434R

【作者名】
境康隆

【あらすじ】
彼はいつも計算通りに一日を過ごす。だから私も彼に近づこうと

彼はいつも同じ時間に、学生への講義の為に研究棟を出る。

それはまるで計算され尽くしたかのような正確さだ。

それもそのはず。彼は気鋭の数学者。

己の行動まで数字で計算したかのように同じ毎日を彼は過ごす。

学者らしい真面目さだ。

私はそんな彼を羨望の眼差しで毎日眺めた。毎日だ。

何せ彼を見つけるのには困らない。比喩なしで測ったかのように、彼の毎日は同じだからだ。勿論曜日による差異はある。むしろ同じ曜日なら同じ一日を彼は過ごす。

素敵だと同じ学者仲間の私は思ってしまう。

理論的に。計算通りに。理想的な一日を彼は過ごす。

偶然なんて忍び込む余地なんてない。運命とかそんな非科学的なことは信じない。奇跡なんて頭の片隅にすら上がらない。

確率の高い方だけが、その確率の通りに彼の身には起こるのだ。

私はそんな彼にどんどん惹かれていく。

それは最初は同じ学者として尊敬の念だったと思う。

だけど同じ学者としてのそんな敬意は、私の個人的な愛情にあったという間に育っていつてしまった。

私は偶然を装って、彼が現れる先々に回り込んだ。研究室で。食堂で。講義の合間に。発表の時間に。私は彼の目にとまるように先回りする。

あら、偶然ですね

私は初めそう言ったと思う。

「偶然なんてありませんよ」

彼は素っ気なく答えた。覚えている。ひどくがっかりしたのを覚えてる。

最近よく会いますね。運命かもしれないですね

何度か彼に偶然あつた振りをして、いつかそう言ったと思う。

「確率的に言つて、あり得ることだと思ひます」

彼はやはり素っ気ない。私はそれでもめげなかつた。奇跡を感じます

思い切つてそう切り出した日もあつた。

「そんなものはありません」

彼は学者らしい意見で私の思いを切り捨てた。

流石に私も相手にされていけないことに気がつき始めた。

だがもつどうしようもない。この思いはつのるばかり。

諦めなければならぬのは分かつている。だがこればかりは計算通りにはいかない。

科学的に考えられない。数字は答ええてくれない。理論は正解を導いてくれない。計算通りなんてできやしない。

理不尽な思いに苛まされて私は一日を過ごす。

ああ、彼は今日も同じ一日を過ごしている。その隣に私がいなくてという一日をだ。

彼が独身なのは知っている。この先ずっと彼はこの同じ一日を過ごすのだろうか。

いや違う。彼だつて永遠に同じ一日を過ごす訳ではないだろう。

人生の節目節目に変化があり、その都度新しい同じ一日を始めていたはずだ。例えば今の学者生活を始めた時のように。

それなら私がいづも隣にいる一日が始まつても、何も理論的におかしいはずがない。

だが彼はどんなに私がいよつても素っ気ない。

偶然も。運命も。奇跡も。私には起こらないし、彼には通じない。

だから私は計算尽くで彼と一つになることにした。

彼はいつも同じ時間に、学生への講義の為に研究棟を出る。

そう

だからこの時間にこのタイミングで飛び降りれば、私は研究棟の上から彼の下へと飛び込むことができる。

偶然が、運命を呼び込み、奇跡を起こすのだ。

私達は死して一つになれるのだ。

時間だ。

私は躊躇いなく研究棟から飛び降りた。私は彼を信じていた。その正確さ故に愛した彼の、その計算通りの日常を信じていた。

ほらね

彼はいつもの時間に研究棟から出てきた。私は一瞬の視界でその愛しい姿を捉える。

計算通り

偶然も。運命も。奇跡も。私の味方はしなかった。

だけど私にはこの方がお似合い。これで少しでも彼に近づいて、最後には一緒になれるのだもの。計算通りの方が彼には相応しいのだもの。

だけど

偶然も。運命も。奇跡も。やっぱり私の味方はしなかった。

彼は偶然目の前を通った女性に、運命を感じたかのように目を奪われ、奇跡的に立ち止まったのだ。

私は計算通りにはいかず、そんな彼の鼻先をかすめて一人地面に叩きつけられた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1434r/>

計算通り

2011年10月7日16時22分発行